



馬印青梅情報 2016年1号

2016年2月29日発行
中日本冰糖株式会社

今年は『申年の梅』!



※『申梅』という言葉もあるほど申年の梅は、古来より災が去る(サル)、病が去る(サル)とされ、縁起がいい、健康にいいと言われられています。その由来は平安時代にまでさかのぼり、当時の村上天皇が申年に漬け込まれた梅干しと、昆布茶を飲んで病を治したというエピソードから始まっています。また江戸時代、天保の大飢饉が流行した際にも、人々はこぞって梅干しを食べたそうです。このようなことから、現在の「梅はなんとなく体に良い」というイメージにつながっているのではないのでしょうか。

和歌山の梅の状況 (主力の南高梅を中心に)

【蓄】着蓄(ちやくらい=つぼみ)数は、平年比93%でした。このあと開花、受粉、果実肥大、生理落果などの要素があり、最終的に実として収穫されるのは10%前後です。気温、風速、降水量などの気象条件に左右されるため、現時点では明確な予測はできません。

【開花状況】1月末から2月にかけて気温が高い日が続き、主力の南高の平野部での満開は2月12日で、昨年(2015年)の2月20日、平年の2月15日よりやや早くなりました。開花が早いと開花期間が長くなる傾向があり、受粉にはいい状況と言えます。2月23日現在での現地調査では、平野部では散りかけ、山間部ではほぼ満開の状況です。

【出荷見通し】梅全体の収穫量のうち、2割程度が青梅として出荷された後、さらに熟度を高めさせ(追熟)、梅干しなど加工用に回るのが通年とされてきました。しかし近年、南高を使用する比較的高価な梅干しの需要が鈍いことを背景に、青梅としての出荷量は一定量確保する傾向が強くなり、作柄の大きな影響は少なくなってきました。例として昨年(27年)は、梅全体の収穫量は前年対比88%に対し、氷砂糖出荷量は前年対比98%となっております。

【写真】(平成28年2月23日撮影、左 平野部全景、中 平野部花、山間部全景)



青梅収穫情報判断の参考

年度	梅全体の 収穫量 (t)	氷糖 出荷高 (t)	気象情勢				温暖○ 寒冷◎		満開時期		備考
			1月 2月 3月 4月				和歌山 県	群馬 県	2月	3月	
			◎	◎	○	○	2月	3月			
20年	121,000	16,999	◎	◎	○	○			中旬	下旬	平年作型
21年	115,200	17,982	○	○	○	○			初旬	中旬	平年作型
22年	92,400	15,824	○	○	◎	◎			中旬	下旬	不作型
23年	106,900	14,798	◎	○	○	○			下旬	下旬	平年作型
24年	90,000	14,306	◎	◎	○	○			3月	4月	不作型
25年	123,700	15,561	◎	○	○	○			中旬	中旬	豊作型
26年	111,400	15,242	○	◎	○	◎			中旬	下旬	平年作型
27年	97,900	14,947	◎	◎	○	○			下旬	下旬	不作型

【受粉】

梅は蜂などの虫を介して受粉をする、虫媒花です。そのため、蜂の活性も受粉に大きな影響を与えます。気温12℃以上、風速3m以下で雨が降っていない状況だと蜂が良く飛ぶとされています。

氷砂糖の販売価格

量販店様売価は下記を参考に、ご案内いたします。
平成28年度一般量販店シーズン売価予想(税抜)

ロック	398~428円
クリスタル	388~418円

今後とも馬印の氷砂糖をよろしくお願いします。

中日本冰糖株式会社

URL: <http://www.nakahyo.co.jp>